



十三小らしい特徴を生かして

校長 早川 和男

7月に入り、1学期もあとわずか、まとめの時期になりました。梅雨のはっきりしない天気が続きますが、ときどき来る晴れ間には、体育で水泳の学習を行う子どもたちの歓声がプールから聞こえてきます。

さて、ふれあいタイム（中休み）になると、多くの子どもたちが芝生の校庭に出て、元気よく遊んでいます。芝生の校庭は小平十三小の一つ目の大きな特徴です。6月からは、靴を脱いで裸足になって駆け回っています。中にはふかふかの緑の芝生に寝ころんだり、転げ回ったりしている子もいます。秋の運動会も裸足で行いますので、それまではずっと裸足です。裸足で運動することで、土踏まずを形成し運動能力が向上します。脳の働きが活性化するとも言われていますので、これからも芝生の校庭を生かして、どんどん裸足の運動を進めていきます。



十三小の二つ目の特徴に、縦割り班活動があります。1年生から6年生までの全学年の児童が所属する小グループを作り、異学年の交流を図っています。上級生には、リーダーとしての素地が養われます。特に6年生の班長は、班の全員をまとめなければなりません。班長会を開催し遊びなどの活動の計画を立てます。下級生は上級生をお手本とし、行いを学んでいきます。先日の学校公開日に実施した体力テストでは、上級生が下級生の面倒を見ながら測定をしている様子をご覧いただけたのではないかと思います。

また、十三小の学区域には小平特別支援学校をはじめとする社会福祉関係の施設が多くあり、交流活動を行っています。これは、三つ目の特徴です。民生委員・児童委員の皆様のコーディネートにより、全クラスで“ふれあい給食”を実施しています。お年寄りや障害のある方をお招きし、子どもたちと一緒に楽しく語らいながら給食を食べます。子どもたちにとって良い経験になるのはもちろんですが、お客様からも「子どもたちから元気をもらった。」「懐かしい給食の味を子どもたちと食べられて楽しかった。」など、喜びの声をたくさんいただいています。



1学期最後の1か月で各学級では学んできた内容を振り返り、成長を認め課題を明らかにして夏休みを迎えられるように指導していきます。終業式の日にはあゆみ（通知表）をお渡しいたしますので、学習や生活・行動面の達成状況をご確認いただき、お子さんがよりよく伸びる話題と励ましの材料にさせていただければと思います。